

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（2012年7月）の予測

発表日：2012年8月31日（金）

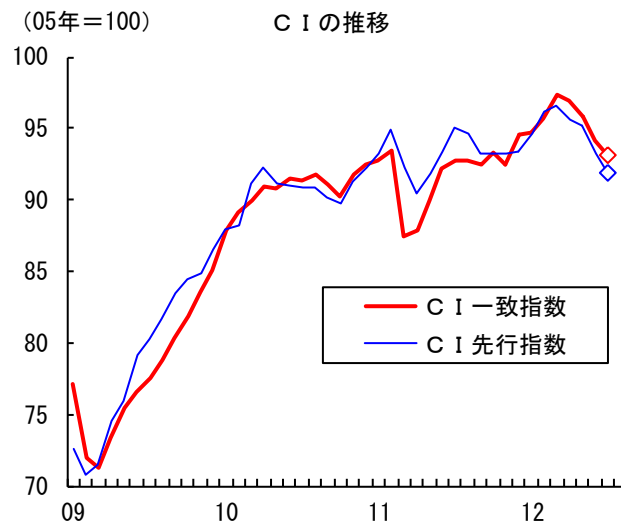
～景気後退局面入り懸念が浮上～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

内閣府から9月7日に公表される2012年7月の景気動向指数では、C I一致指数は前月差▲1.0ポイントが予想される。これで4ヶ月連続の低下であり、低下幅も大きい。景気に陰りが見え始めていることが示唆される結果になるだろう。生産関連指標での季節調整の歪みにより、足元の減速が誇張され過ぎている点には注意する必要があるが、警戒が必要な状況であることは間違いないだろう。なお、7月の内訳では、有効求人倍率のみがプラス寄与で、残りの9系列はすべてマイナス寄与になった模様だ¹。

C I先行指数も前月差▲1.3ポイントが予想される。こちらも4ヶ月連続の低下である。内訳では、在庫率関連のマイナス寄与が大きい。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、5月まで続いていた「改善」が6月に「足踏み」に下方修正されていたが、7月も「足踏み」で据え置かれるだろう。なお、8、9月の生産予測指数の動向などから判断すると、9月分の景気動向指数で、基調判断が「足踏み」から「下方への局面変化」にさらに下方修正される可能性がある。内閣府の定義では、「局面変化」とは「事後的に判定される景気の山・谷が、それ以前の数か月にあった可能性が高いことを示す」とされており、今後景気が「後退局面」と判定される可能性が否定できなくなってきた。正式な景気の山谷はヒストリカルD I等を元に決定されるため、C Iの基調判断と景気の子谷が直接対応するわけではないが、過去において、C Iがピークを付けた時期と景気の子谷のタイミングは、概ね一致することが多かったことも事実である。景気は正念場を迎えていると言えるだろう。



(注)2012年7月は第一生命経済研究所による予測値

¹ 現時点で未公表である所定外労働時間については前月比マイナスと仮定して計算した。